
とある能力の人間進化【ヒューマンシフト】

忘年会

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある能力の人間進化【ヒューマンシフト】

【Nコード】

N7321Y

【作者名】

忘年会

【あらすじ】

何かマイナー？な能力名を持つ僕のlevelはなんと「level5」！！序列は超電磁砲と同程度（つまり第3位）！？

そんなこんなでノリで人生を愉快に生きようと思ったら、人生はそう簡単にはいかず：上条当麻にあったことで魔術なんかと関わらわ！！学園都市の闇に引きずり込まれるわで……………僕は楽しく生きるのが性分なのにねえ。だったら何でも良い。ゾンビがいようがぶっ倒し、世界が滅亡しようが新たな銀河の星で、楽しく人生を生き抜いてやる！！（多分…な）あ、ちなみに始まりは7月19日か

【第一章】第一話 人生は楽しく生きましよう（前書き）

主人公僕口調なのに、チャラすぎる。（汗）

【第一章】第一話 人生は楽しく生きましよう

「みなさーん、席に着いてくださーい」

とある高校のとある教室で、幼児ボイスが響いた。仮にもここは高校だ。幼稚園児なんてどこにもいない。だったら、その発生源は誰のものなのか。

「はいハイ、今日は見てビックリ聞いてビックリのお話がありますよー」

その発生源は月詠小萌。

身長は低く幼い顔立ちをしている。周りから見ると小学生ぐらいの子で、赤いランドセルとリコーダが似合う『女の人』だ。

なぜその容姿で『女の人』かという点、この女性実は、教育免許を取得しており、立派な成人なのだ。

それに、ビールだってガンガン飲むし煙草だって吸う。だから、『女の子』ではなく『女の人』だ。

聞いてビックリ、見てビックリの話は今から教卓の前で、背伸びしながらするらしい。

というが、初めてこの人の容姿と素性を知った場合、それこそ、この人 月詠小萌の存在は、聞いてビックリ、見てビックリだろう。

そんな月詠小萌がクラスのみんなに話してるのを、僕は廊下側の教室から見ている。

「なんと今日は、転校生が来るのですよー」

そんな幼児ボイスが、廊下まで聞こえてきた。相変わらず高校にそぐわない声だと僕は思う。

まあ、その先生が今日から僕の担任なるわけだが……なんとなく納得行かない。

だって見た目は子供だよ！幼児だよ！、もつと美人な先生期待してたのに期待外れだよ。

とかいうくだらない思考を張り巡らせながら、早く教室に入られないかと痺れをきらしながら待っていた。

いやでも僕にとってはくだらないことではない。いいか野郎どもよく聞け、美人な女性が担任というのがどれだけ幸せなことか。今から僕が力説してやる。

そりゃあ、暇な授業時間は美人な担任を眺めていればあっさり授業なんて終わるし、もしその担任誉められたら頭をよしよしされ放題。つか、その美人教師が担任だけで毎日学校がパラダイス！！ん？そこまで暑く語らなくてもいいだと。

「いやでも、それが現」

「海翔^{かいと}ちゃん、何勝手に妄想してるのかは分かりませんが、話しは終わりましたので入って下さいー」

突然小萌先生がドアを開け僕を呼んできた。

あれ、いつの間にか思考だだ漏れ？

というより最初の方からではないよね？もしそれがきっちりカッ

チリ小萌先生に聞こえてたら、僕が学園パラダイス送る前に小萌先生に死刑宣告下されるっていやだああ！！僕は美人な女性とパラダイスを満喫するんだあー。

「こんな所で死にたくねえ！！美人なお姉さんお助けをー！！」

「海翔ちゃん！！永来えいらい海翔ちゃん！！」

「あ、ハイ！？」

やべー完全に自我失うところだったわー。
まあそれが、僕らしさ？

「何でしょうか？月詠小萌様！！」

まるで、お偉い武將に挨拶するように正座し頭を床に付けた。

「ど、どうしたんですか海翔ちゃん！！」

その光景を見ていた生徒達が、小萌先生をジト目で見てきた。
あれ何この展開？てかなぜ僕は正座してしまっただ！！
なんとなくいやな予感がしたのか、それが見事に的中！！

「小萌先生…一体この人にどんな調教を…」

それが第一声。続けて

「いつの間にか小萌先生にあんな相手が…」

「あんまりあの人が関わらない方が…」

極めつけには、青髪の狐目をした男が。

「小萌先生ー！！嘘やろー、そんな奴が小萌先生の恋人ー！？」

いやいや違うから！？僕はロリコンではないから！？

しかしその青髪男は仕舞いには。

「何だつたら、転校生は小萌先生の家にもベルト忘れてたりしてるんかいなー！？」

と、洒落にならないことを言いながら、頭を両手で抑え机にグツタリとしていた。

「誤解だクソボケー（しないでください）！！！！」

「ご家医だ、ご解だ、語回だ、誤火意だ、誤解だー！！！！」

と、ようやく理解できたのか、みんな落ち着き（一人未だに、頭を抑えつけて苦悩してる青髪男を除く）僕に視線を寄せてきた。

（あ、そうか、挨拶し忘れてた）

僕は白のチョークを手に取り、黒板に名前を書きそれを読みながら自己紹介した。

「えっ、と。永来海翔です。とある事情でこの学校に転校して来ました。以後お見知りおきを。他に聞きたいことはありますか？」

なるべく早く終わりたいんだけどな。
でも物事はそう簡単には進まない。

ここは学園都市。学生であっても大人であっても、一番注目されるのは『超能力』だ。それを転入生が訊かれない筈がない。

「えーと、永来君の能力は何ですか？」

ほら、ね。あ、だったら！

「小萌先生。僕、今から身体検査を受ける予定なんで、見せて上げて良いですか？」

「ハイ、勿論それを予定にいれてるしますので、今から校庭前に集合しますよー」

すると、「やったー授業潰れる」とかいう声が聞こえてきた。

僕の身体検査を悪利用するとは…さきにお前を潰すぞこの野郎。

まあ、本当に潰すわけにはいかないので我慢しながら、校庭に行くことにした。

見ておれ、今から僕の力を見せてHARLEM生活を送ってやる。
え？HARLEM関係無い？

早速みんな集まり、僕の能力を見ることにした。
他のクラスも廊下の窓から覗いていた。

levelが高い可能性があるため、僕のクラスは少し遠い所で
眺めていた。

「君の能力は、ヒューマンソフト人間進化levelは4だったね」

ヒューマンソフト人間進化。それが僕の能力だ。全くもってマイナーな能力に聞こえるが性質は、まあこの力を今から見せてやんよ。

てかみんななぜかもう驚いた顔してるし！！そうかこの高校、無能力者ばかりだからlevel4自体がすごいんだっけ。

例えば、システムスキャン身体検査を受けるのは久し振りだな。levelは上がらなくとも、少しは性能アップしてるだろうか。

「じゃあ、手始めにこの鉄板を割ってもらえるかな？」

そう言われると、地面に厚さ5cmの鉄板が置かれた。

「砕くか引き裂くか。引き裂くに決定」

そう言っつて僕は手を爪で引つ掻くように構えた。

そしてそのまま鉄板に振り下ろした。すると鉄板が爪に当たった瞬間、あっさりと鉄板は二枚に引き裂かれた。同時に突風がなり、砂煙がおき、鉄板をが吹き込んだ。

それで終わるかと思った。

「ゴホゴホ、ん…これは？」

僕は砂煙を振り払うと、あることに気付いた。

「えーと、もしかして」

鉄板のあった地面が縦一線に5mほどの爪で引き裂かれた痕が残っていたのだ。自分の能力なのにも関わらず僕は驚いていた。無論学校のみんなもだ。

「君！この力は!？」

「ここまで、上がってるなんて…後は五感を上げたりする事だけ」

「何？一体君の人間進化は何なんだ？」

「えーと、簡単に言うと人間の性能を高めちゃうんですね。筋肉を強くして、20m高く跳んだり、最高時速110kmで走る(つまり100mを3〜4秒で走る)、五感を上げて、1km先のアルミ缶が落ちた音を聴きとるとか、1km先のビー玉を確認できる。ぐらいですかね」

「ぐらいって、それは既にlevel5ではないか。早速他の実験も始めるぞ!？」

あれ？、そうだったの気付かなかった。あ、でもこれを伝えておかないと。

「あのお喜びのところ、申し訳ないけど、筋肉を強くするといっても防御力は高められないし、脳なんて良くなりませんよ?。」

ようするに鉄パイプで殴らたらひとたまりもないし、脳なんて良

くならないから僕の脳は馬鹿だ。

うん、自分で言っただけ悲しい。

「能力に欠点は付き物だ。だからこそ能力だろう。さあ早くlevelの結果を調べよう」

その後僕は、身体検査を受けた。

結果

level15人間進化

順位第3位（御坂美琴と並ぶ）

（あれ、マジで…これで美人な姉ちゃんとのフラグ立て放題！！）

【第一章】第一話 人生は楽しく生きましょう（後書き）

今回は永来海翔の自己紹介!!! まあ、驚くほどではないけどお楽しみに

オリ主設定 1 (前書き)

永来海翔のオリジナル設定です。

オリ主設定 1

《名前》 永来海翔えいらいかいと

《一人称》 僕

《年齢》 16歳

《身長》 173Cm

《体重》 55kg

《容姿》 黒髪で漆黒の瞳。髪は少し短く、ツンツンしている。)
土御門元春の黒バージョンと思えば良い)

《能力説明》 人間進化ヒューマンソフト

level5 序列第三位で御坂美琴と同じ。

人間の性質を格段に上げる能力。筋肉を強くして、拳で地を割ったり、細い爪でコンクリートを切り裂くこともできる。

跳躍も発達することが可能で20m跳ぶことができ、時速110kgで走ることも可能(100mを3〜4秒で走ることができる)。また、五感を向上させることもできるため、聴覚を上昇させると1km先のアルミ缶の落ちた音が聴きとれる。感触では空気の流れなどを感じ取ることができる。視覚では1km先のビー玉を見つけられる。味覚では、料理を食べることでその料理に何の調味料を使っただか。臭覚では、犬並みの嗅覚を持つ。これらが可能。

しかし、人間の性質を上げるといっても、防御力、頭を良くした

りする事はできない。

《特徴》 一人称は僕だが、俺口調で喋ることも多い。ちょっとチヤラチヤラしていて気さくな性格。人の心情を掴むのが上手く相手に合わせて調子を変えるため、親しみやすく全体的に好まれている。しかしながら、彼の行動はそれなりに計算されており、それが戦闘で約立つこともある。

料理好きで特にカレーやピザ、インド料理が得意。また甘党のため、お菓子作りもそれなりにできる。

勉強は理科がそれなりにできるが、あとの科目は駄目なので夏休みなどは補習を受ける羽目となっている。

女性好きだが、手は出さない…かも。

自分を犠牲にしても仲間を守る仲間思い。

『人生を楽しく生きる』が海翔のキャッチフレーズだが、ある過去が原因しているため、それがキャッチフレーズになっている。

オリ主設定 1 (後書き)

物語が進むに連れ変わるかもしれません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7321y/>

とある能力の人間進化【ヒューマンシフト】

2011年11月22日02時00分発行